

(表-2)

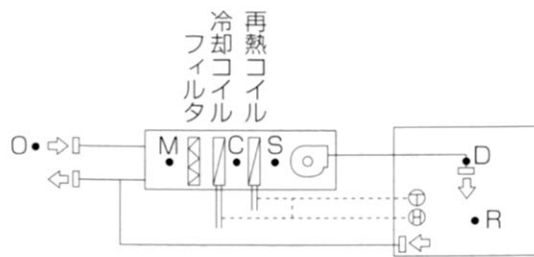
冷 房 能 力											
ユニット サイズ	水量 (L/min)	水圧 損失 (kPa)	入口空気温度 DB=27℃ WB=19.5℃ (室内温湿度)								
			入 口 水 温								
			5℃			7℃			9℃		
			顕熱量 (kw)	全熱量 (kw)	冷 水 温度差 (℃)	顕熱量 (kw)	全熱量 (kw)	冷 水 温度差 (℃)	顕熱量 (kw)	全熱量 (kw)	冷 水 温度差 (℃)
400	4	1.8	2.68	2.89	10.4	2.56	2.56	9.2	2.30	2.30	8.3
	6	3.7	2.90	3.48	8.3	2.73	3.04	7.3	2.59	2.63	6.3
	8	6.1	3.05	3.89	7.0	2.86	3.38	6.1	3.68	2.90	5.2
	10	9.0	3.16	4.18	6.0	2.95	3.63	5.2	2.76	3.10	4.4
	12	12.3	3.25	4.40	5.3	3.02	3.82	4.6	2.81	3.25	3.9
	14	16.0	3.32	4.57	4.7	3.08	3.96	4.1	2.86	3.37	3.5
	16	20.2	3.37	4.70	4.2	3.12	4.08	3.7	2.89	3.47	3.1
	18	24.8	3.41	4.82	3.8	3.16	4.18	3.3	2.92	3.55	2.8

(表-3)

冷 房 能 力											
ユニット サイズ	水量 (L/min)	水圧 損失 (kPa)	入口空気温度 DB=26℃ WB=18.7℃ (室内温湿度)								
			入 口 水 温								
			5℃			7℃			9℃		
			顕熱量 (kw)	全熱量 (kw)	冷 水 温度差 (℃)	顕熱量 (kw)	全熱量 (kw)	冷 水 温度差 (℃)	顕熱量 (kw)	全熱量 (kw)	冷 水 温度差 (℃)
600	4	4.7	3.77	4.20	10.0	3.57	3.67	8.8	3.25	3.25	7.8
	6	7.7	3.98	4.74	8.5	3.74	4.12	7.4	3.53	3.53	6.3
	8	11.4	4.14	5.15	7.4	3.87	4.46	6.4	3.62	3.80	5.5
	10	15.6	4.26	5.47	6.5	3.97	4.72	5.6	3.70	4.01	4.8
	12	20.4	4.36	5.72	5.9	4.05	4.93	5.1	3.76	4.18	4.3
	14	25.6	4.44	5.92	5.3	4.12	5.11	4.6	3.81	4.32	3.9
	16	31.4	4.51	6.09	4.8	4.17	5.25	4.2	3.86	4.43	3.5
	18	37.7	4.57	6.23	4.5	4.22	5.37	3.8	3.89	4.53	3.2

(4) 室内負荷特性との適合ミス

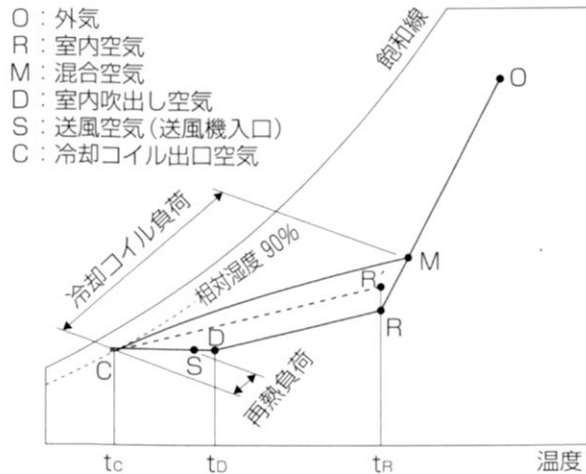
劇場・集会場など人員密度が多く、室内潜熱負荷の大きい部屋で、湿度環境が重要な場合は除湿再熱方式を採用する。



(a) 除湿再熱方式空調機

この場合、空調風量決定用 $\Delta t = t_R - t_D$ であるが一般空調と同様に $\Delta t = t_R - t_C$ とし、除湿再熱方式を採用しないでC点にて吹出すと、室内湿度は高くなる。(室内 $R \rightarrow R'$)

※潜熱負荷の多い部屋は空調方式に留意する。



(b) 除湿再熱方式での空気状態変化

チェック項目

- ☐ 室内負荷特性を空気線図で確認したか？
- ☐ その条件で空調風量を決定したか？

(5) 経年劣化対応不足

空調機器は長年に亘って使用すると、経年劣化を起こし機器の能力がダウンする。そのため機器容量の算定時に、必要容量に経年係数(K_4)及び能力補償係数(K_5)を乗じて決定する。

K_4 ：経年係数 (=1.05)

K_5 ：能力補償係数 (=1.05)

・国土交通省大臣官房官庁営繕部設備課監修建築設備設計基準による。

※空調機器は経年劣化等を考慮し、負荷計算値より余裕を持った容量で選定する。

チェック項目

- ☐ 機器算定時に経年係数及び能力補償係数を乗じて決定したか？